

京都国立博物館
だより

二〇一七年
四・五・六月号

KYOTO
NATIONAL
MUSEUM
2017 April to June vol.194

開館120周年記念特別展覧会

海北友松

特集展示

名刀聚英―永藤一の愛刀―

特集展示

古書画へのまなざし

―伴實コレクション―

特集展示 京都水族館連携企画

京博すいぞくかん

―どんなおさかないるのかな?―

特集展示 大政奉還150年記念

鳥羽伏見の戦い

最晩年に近い友松の活躍の場として、妙心寺を忘れることはできません。妙心寺に伝わる二双の屏風は、いずれも漢画の手法が駆使された華やかな金碧屏風。今を盛りと咲き誇る牡丹を右隻に清楚な梅椿を左隻に描く「花卉図屏風」は、友松画のなかで最もゴージャスな雰囲気を用意しています。

第八章◆画龍の名手 友松―海を渡った名声―

龍は、頭が駱駝、角が鹿、目が鬼、耳が牛、体が蛇、腹が蟹、鱗が鯉、爪が鷹、掌が虎に似るとされる想像上の動物で、古くより水墨画の画題として好まれ、多くの画家が描きました。友松も龍図を得意としており、その評判はわが国はもちろん、隣国の朝鮮でも非常に高かったようです。ここでは、朝鮮の高官 朴大根の書状とともに、さまざまな龍図を紹介します。

第九章◆友松の押絵、人気を博す―最晩年期の交友―

「押絵」とは屏風の 扇ごとに絵を押す（貼る）もので、詩作の会や贈答などに用いられました。気負いのない筆遣いと洒脱な雰囲気、友松の押絵は高い人気を博し、天皇や宮家をはじめ、寺院や武家、富裕町衆まで幅広く受容されていたようです。賛が施された友松の押絵とあわせて、希少な自筆の書状なども展示します。

第十章◆豊かな詩情―友松画の到達点―

友松の水墨画は、ほとぼしる気迫を前面に押し出した画風から、次第に静謐で情趣性豊かなものへと変化していきます。展示の最後に、友松の最高傑作との呼び声高い「月下溪流図屏風」を紹介します。早春の夜明け頃、朧月の優しい光が溪流を淡く照らす様子を詩情豊かに描き出したこの作品は、友松が辿りついた孤高の境地といえるでしょう。

この展覧会は、友松の知られざる生涯とその画業の全貌に迫る、質、量ともに兼ね備えた、最大規模の回顧展となることでしょう。最晩年まで絵筆を握り続け、八十三歳でその生涯を終えた桃山最後の巨匠の世界を、心ゆくまでご堪能ください。



月下溪流図屏風（左隻） 海北友松筆 米国 ネルソン アトキンス美術館 Photography by Mel McLean, courtesy of the Nelson-Atkins Museum of Art



重要文化財 琴棋書画図屏風（右隻） 海北友松筆 京都 妙心寺

特集展示

名刀聚英

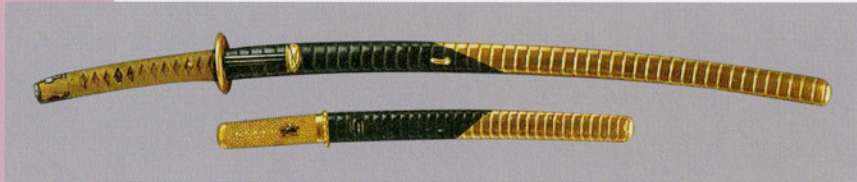
―永藤一の愛刀―



平成29年6月13日（火）～7月17日（月・祝）
【平成知新館 1F 2・5】

永藤 九〇九（九九九）氏は二十世紀の関西を代表する愛刀家です。永家は近江商人の筆頭格 川島家の流れを汲み、氏の代になってからは主に製薬関係の仕事を行いました。二共株式会社（現在の第二共株式会社）の役員であった永は、戦後の混乱期に 時中国に抑留され 本土に戻ったのちも精力的に事業に取り組んで、系列会社である錦城薬品株式会社の社長を長く勤め、地元大阪で没しました。政財界の重鎮をはじめ、重要無形文化財保持者である十四代樂吉左衛門寛入氏、月山貞 氏、本阿弥日洲 光洲氏といった文化人までその交友関係は広く深いものでした。

また、永はその名を轟かせた敏腕経営者であると同時に、切の妥協を許さない研究者でもありました。製薬業界に身を置く永は、昭和二十四年九五九『パラチオン中毒に関する研究』によって名古屋大学医学部より医学博士の学位を取得します。パラチオンは当時広く使われていた殺虫剤でしたが、その毒性は極めて高く、我が国においては昭和四十六年 九七 に使用禁止措置が取られた劇薬です。氏の論文はこれに十一年も先立ち、当初よりこの薬害に対する警鐘を鳴らしていました。永の実業家としての交友の広さと、研究者としての鋭敏な感覚、実証主義に基づく地道な研究姿勢は氏のコレクション形成にも大きな影響を与えました。永藤 コレクションの真骨頂は単なる名品蒐集に終わることなく、刀工間の技術系譜の解明に心血を注いだ点にあります。新藤五国光より始まる相州様式の出現とその展開を解明すべく、名工 正宗を生涯追い求めた彼のコレクションは、美術性の高さは当然として、資料性の極めて高い唯一の作品に満ち溢れているのです。京都国立博物館では氏の存命中より所蔵作品の寄託を受けており、その縁あって平成一十八年度に御遺族のお申し出からコレクションの大半を御寄贈いただきました。今回これらの名刀をご紹介します特集展示を開催いたします。名物 秋田藤四郎をはじめ、正宗の系譜を引く左文字や秋広の短刀など、刀剣文化を愛し、数々の名品を見出してきた永藤一ならではのコレクションをご堪能ください。



重要文化財 金製斗刻鞘大小拵 永藤一氏旧蔵 京都国立博物館

重要文化財 短刀 銘吉光（名物秋田藤四郎）永藤一氏旧蔵 京都国立博物館

特集展示

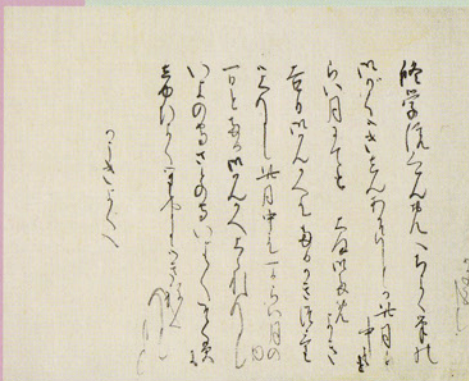
古書画へのまなざし

―伴實コレクション―

平成29年6月13日（火）～7月23日（日）
【平成知新館 1F 3】

当館は昨年度、伴實氏が生涯にわたり蒐集した古書画四十七件を、ご遺族の方よりご寄贈いただきました。伴氏は商売を営むかたわら、五十年ちかくも自らマーケットに足を運び、おもに古文書を中心として、眼鏡に適ったもののみを集め続けました。確固たる信念に基づき入手した作品は、自分好みの表具をほどこすなど、氏の注いだ温かいまなざしに溢れています。今回の展示では、古美術を愛する真の「コレクター」であった伴實氏が蒐集した古書画のなかから、代表的な作品をご紹介します。

（羽田 聡）



明正天皇宸翰消息 伴實氏寄贈 京都国立博物館

平成知新館 名品ギャラリー

「友松の作品―剛と柔 漢と和」
日時 5月13日 土 午後1時30分～3時
場所 平成知新館 講堂
講師 田沢裕賀氏（東京国立博物館調査研究課長）
【参加方法】当日12時より、平成知新館1階グラントロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。定員200名。聴講無料（ただし「海北友松」展の当日の観覧券が必要）。

3F1 陶磁

【染付けの美／日本と東洋のやきもの】
6月17日（土）～9月3日（日）
* 6月13日（火）～6月16日（金）は休室。

3F2 考古

【弥生時代の青銅器】
【日本出土の考古遺物】
6月17日（土）～9月3日（日）
* 6月13日（火）～6月16日（金）は休室。

2F1 絵巻

【兵―軍記物語と武勇譚―】
6月13日（火）～7月23日（日）
【特集展示 京博すいぞくかん】
7月25日（火）～9月3日（日）
2F2 仏画

【密教図像の美―入魂の 発技―】
6月13日（火）～7月23日（日）

【特集展示 京博すいぞくかん】
7月25日（火）～9月3日（日）

2F3 中世絵画

【東福寺の絵師―明兆と良全―】
6月13日（火）～7月23日（日）

【特集展示 京博すいぞくかん】
7月25日（火）～9月3日（日）

2F4 近世絵画

【祝いの調度―祭礼図屏風―】
6月13日（火）～7月23日（日）

【特集展示 京博すいぞくかん】
7月25日（火）～9月3日（日）

2F5 中国絵画

【伝説の画家たちが描いた仏画】
6月13日（火）～7月23日（日）

【特集展示 京博すいぞくかん】
7月25日（火）～9月3日（日）

1F1 彫刻

【仏像入門】
4月11日（火）～5月21日（日）

【閻魔と地蔵／日本の彫刻】
6月13日（火）～9月3日（日）

1F2 特別展示室

【特集展示 名刀聚英―永藤一の愛刀―】
6月13日（火）～7月17日（月・祝）

【特集展示 大政奉還 五〇年記念 鳥羽伏見の戦い】
7月25日（火）～9月3日（日）

1F3 書跡

【特集展示 古書画へのまなざし―伴實コレクション―】
6月13日（火）～7月23日（日）

1F4 染織

【正倉院裂と古代の染織】
6月13日（火）～7月23日（日）

1F5 金工

【特集展示 名刀聚英―永藤一の愛刀―】
6月13日（火）～7月17日（月・祝）

1F6 漆工

【化粧道具】
6月13日（火）～7月17日（月・祝）

特集展示 京都水族館連携企画

京博すいぞくかん

—どんなおさかないるのかな?—

平成29年7月25日(火)～9月3日(日)
平成知新館(2F・1・5)

この夏、収蔵品の中に棲む水の生き物が大集合して、京都国立博物館に「すいぞくかん」が現れます!この特集展示は、京都水族館」と連携した、京博はじめての子ども向け展示です。夏休みの 日、親子で楽しく博物館で過ごしてみませんか?

水に恵まれた日本では、魚をはじめとする水の生き物と人間が深い関わりを持ってきました。たとえば絵巻の中をのぞいてみると、ごちそうを作るために大きな魚や海老、鮑をはりきって調理する人の姿が見えます。魚たちは食材になる

だけでなく、暮らしを彩る工芸品や装飾品にも加工されました。虹色に輝く夜光貝や鮑の貝殻は漆の箱を美しく飾り、ツカエイのザラザラした皮は、刀の柄に使われました。

また人間は、魚たちの姿や生き方に様々な願いを重ねてきました。腰の曲がった海老は「長生き」を表し、男子の成長を願って今も飾られる「こいのぼり」は、鯉が急流をさかのぼって龍になるという「登龍門」の伝説が

元になっています。人々は魚たちの姿をうつし、身近に置くことで、彼らが持つ特別な力を分けてもらおうとしたのです。

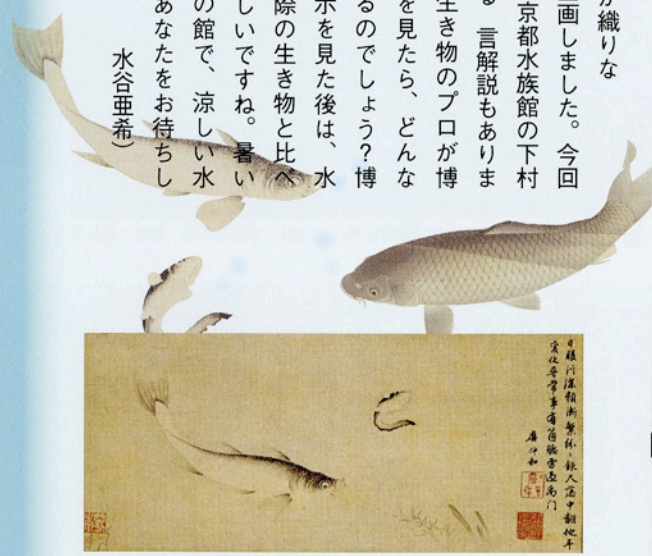
水の中で生きられない人間にとって、水中は異世界でもありました。そんな未知の世界に私たちは想像力を膨らませ、様々な伝説や物語が生み出されました。山幸彦や浦島太郎は、海中の豪華な宮殿に招かれて世にも不思議な体験をします。巨大な亀の背中にある蓬莱山には仙人が住み、不老不死の薬があると信じられました。ほかにも龍や人魚など、本物の水族館ではお目にかかれない水の生き物も「京博すいぞくかん」には登場します。

この特集展示は、こうした水の生き物と人が織りなす世界を、親子で楽しく見ていただけるよう企画しました。今回は特別に 京都水族館の下村館長による 言解説もありま



網目と注連縄に海老文様帷子 京都国立博物館

す。水の生き物のプロが博物館の魚を見たら、どんな風に見えるのでしょうか?博物館で展示を見た後は、水族館で実際の生き物と比べるのも楽しいですね。暑い夏、一つの館で、涼しい水の世界があなたを待ちっています。 水谷亜希)



藻魚図 等本筆 隆仲和賛 京都国立博物館

※京都水族館では7月1日～9月3日、京都国立博物館連携企画「すいぞくかんとはくぶつかん」を開催します。



紅蓮遊魚図 齊白石筆 京都国立博物館



龍門図のうち 円山応挙筆 京都国立博物館

特集展示 大政奉還一五〇年記念

鳥羽伏見の戦い

平成29年7月25日(火)～9月3日(日)

平成知新館(1F・2)

慶応二年 八六六の長州藩と幕府軍との戦争、すなわち第一次長幕戦争が長州藩の大勝に終わったことにより、幕府の権威は失墜し、あらたな国家体制への移行が求められるようになりました。慶応二年 八六七 薩摩藩と長州藩は、武力によって幕府を倒すことを準備していました。その 方で土佐藩は幕府の握る政権を平和裏に朝廷に返上、議會を開いて国政を運営しようとする「大政奉還策」を推進します。慶応二年十月初めには土佐藩前藩主山内容堂の名前で幕府に建白書が提出され 京都に居た將軍徳川慶喜はそれを受け入れたのです。十月十四日、慶喜は朝廷に大政奉還を上表、翌十五日に朝廷がそれを許したことにより、源頼朝が鎌倉幕府を開いて以来ほぼ武家が握っていた政権が 朝廷に返還されました。 応平和裏に行われた政権の移譲ですが表面の平和とは裏腹に やがて旧幕府側と西日本の諸藩とが 武力で激突することになります。

十一月九日の「王政復古の号令」を受け、薩摩藩や長州藩は朝廷の側に立ち、旧幕府勢力を挑発しました。大坂城に居た旧幕府軍は、慶応四年 八六八 月三日の夕刻、兵を進めて京都を奪還しよう、鳥羽街道を北上します。それに対し、薩摩藩兵の大砲が発射されて始まったのが「鳥羽伏見の戦い」です。伏見奉行所を拠点とした会津藩兵や新選組などの旧幕府軍と、薩摩藩や長州藩の兵士との間でも激しい戦いが行われ、伏見の街は半分が焼失したといわれます。兵員の数に劣る新政府軍でしたが戦意旺盛で各所で旧幕府軍を打ち破りました。新政府軍は淀川沿いに大坂へ攻めくんだり、 月六日には徳川慶喜が大坂城を脱出、汽船で江戸へ戻り、西日本は新政府の軍事優位が確立したのでした。明治維新の方向を定めた戊辰戦争のはしまりがこの「鳥羽伏見の戦い」であったとされています。この特集展示では、残された史料や絵画から、「鳥羽伏見の戦い」の様子を紹介します。



瓦版「都風流トコトンヤレ節」

よびもの 過去から未来への文化財レスキュー

京都国立博物館研究員 井並林太郎

昨年の十一月、私は熊本県に三日間滞在した。熊本地震で被害を受けた文化財の保守作業をおこなうためである。文化庁は、被災文化財等を保全する取り組みを「文化財レスキュー事業」として位置づけ力を注いでおり、当館の研究員 事務職員も作業のためしばしば現地に派遣されているのである。

私たちは被災文化財の 時的な保管場所に集まり、旧家に伝えられた道具類のクリーニングをおこなった。その家の蔵は半壊してしまったらしく、雨水などにさらされてしまった多くの文化財が、泥の付着やカビの発生といった被害を受けていた。私たちはそれらを清掃・消毒して将来の致命的な損壊から防ぐのである。なお、こうした作業に集中して取りかかれるのは、震災発生直後から迅速な対応をおこなってきた方々が各機関と連携し体制を整え、多くの作業員が崩壊の危険のある蔵から文化財を救出した、そうした労苦の賜物にはかならない。

取り扱った文化財の多くは漆器や金属器であったが、ひとつ、多量の本やノート、手紙が収まった大きな櫃があった。明治時代のもので、紙に筆記された文字は、つい数十年前までは生きていたであろう人の、生々しい存在の証である。すでに乾燥の処置はされていたが、紙はしみに染まり、黒ずんだ砂が端々にまで入りこんでいた。限界はあるが、なるべく丁寧にそれを払い落としていく。

このとき思い出していたのは、当館に所蔵されている鎌倉時代の絵巻物「若狭国鎮守神人絵系図」のことである。この絵巻物は、福井県の若狭彦・若狭姫神社の創建縁起や、同社の社務職を務めた笠氏の歴代肖像を描いたもので、若狭における信仰の歴史を語るうえで欠かせない作品である。ただ、しみが紙の大部分を変色させ、しわも黒ずんでいるため、絵柄が不鮮明になってしまっている箇所がある。とくに巻頭部分は、変色がより甚だしく、紙の欠失も大きい。しみの現れたなどから察するに、過去に巻かれた状態で水害に遭ったのであろう。作品が損傷したのはおそらく、六、七世紀頃のことと思われるが、これを目にした人々の心中は、察するに余りある。

明治時代の汚れた紙を黙々と掃除していると、この絵巻を守ろうとした過去の誰かも、まず風乾させ、紙に付着した汚れを除去するところから「レスキュー」を始めたのだらう、と思ひ浮かべられるような気がしてきた。我々が今日この鎌倉時代の名品を目にすることができなのは、その名もなき誰かのおかげである。

三日間の熊本滞在で清掃できた文化財の数はあまりに少ない。しかし、この仕事は少しでも、旧家の、ひいては地域の記憶を未来に伝えることにつながるのだから幸いである。

土曜講座

6月17日「ながふじかず永藤一コレクション—正宗を追い求めた男—
東京国立博物館研究員 末兼俊彦氏

6月24日 小さな裂から広がる世界—正倉院裂の魅力—
京都国立博物館教育室長 山川暁

※平成知新館 講堂にて 午後1時30分～3時に開催。定員200名、聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要)。
※当日12時より、平成知新館 1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

講座・イベント

《京都 らくご博物館 春》

日 時 5月12日(金) 18:00開場 18:30開演

会 場 平成知新館 講堂

出 演 桂慶治朗 桂雀太 桂雀喜 中入 桂雀五郎 桂雀三郎

入場料 3100円(税込)/キャンパスメンバーズ2500円(税込)(全席指定 特別
展覧会団体割引 引換券付)

※チケットご希望の方はお電話、またはWEBよりお申し込みください。
申し込み先:お電話/博物館事業推進係 075-531-7504(月～金の10～12時・13～17時に受付 ※祝日
は除く) WEB/ <http://www.kyohaku.go.jp> らくご博物館【春】申し込み画面

《平成29年度夏期講座のお知らせ》

テーマ 名品を旅するⅡ

開講日 7月28日(金) 29日(土)

※1日3講、計6講座となります。見学会はありません。

会 場 平成知新館 講堂 定員 200名

聴講料 3000円

※申込方法 往復はがきに住所 氏名 年齢 職業 電話番号を明記の上、京都国立博物館「夏期講座」
係(〒605-0931 京都市東山区茶屋町527)までお申し込みください。お申込期間は6月1日～10日です。
※5月31日以前の申込は無効となります。申込人数が定員を超えた場合は抽選とさせていただきます。

これからの展覧会

◆特集展示 大政奉還150年記念 鳥羽伏見の戦い

2017年7月25日(火)～9月3日(日)

◆特集展示 京都水族館連携企画 京博すいぞくかん—どんなおさかないるのかな？

2017年7月25日(火)～9月3日(日)

◆開館120周年記念 特別展覧会 国宝

2017年10月3日(火)～11月26日(日)



国宝 桜図壁貼付 長谷川久蔵筆 京都 智積院

国立博物館の展覧会

【東京国立博物館】

特別展「茶の湯」

2017年4月11日(火)～6月4日(日)

【奈良国立博物館】

特別展「快慶 日本人を魅了した仏のかたち

2017年4月8日(土)～6月4日(日)

【九州国立博物館】

特別展 タイ～仏の国の輝き～

2017年4月11日(火)～6月4日(日)

◆ 明治古都館休館のお知らせ ◆

京都国立博物館では、埋蔵文化財調査等のため、明治古都館を当分の間休館することになりました。それに伴い、明治古都館休館中は、特別展覧会を平成知新館にて開催いたします。特別展覧会の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止することとなりますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【3～6月の名品ギャラリーの休止および部分開館の予定】

名品ギャラリー休止期間:	3月22日(水)～6月12日(日)
名品ギャラリー部分開館:	6月13日(火)～6月16日(金)
	2F・1F各展示室(3Fは閉室)
庭園のみ開放	3月22日(水)～4月9日(日)
	5月23日(火)～6月12日(日)

ご利用案内

【開館時間】 9:30～17:00

※特別展覧会期間中は9:30～18:00

※金・土曜日は20:00まで開館

※入館は各閉館の30分前まで

【「海北友松」観覧料】

一般 1500円(1300円)

大学生 1200円(1000円)

高校生 900円(700円)

※()内は団体20名以上、中学生以下無料

※名品ギャラリー観覧料

一般 520円(410円)、大学生 260円(210円)、高校

生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料

()内は団体20名以上

【休館日】 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)

アクセス

JR＝京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂下車すぐ
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
近鉄電車＝丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車＝七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車＝河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

※「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は92円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <http://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2017年4月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社

ライブアートブックス

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM